

事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	構造材料の時間依存型損傷評価技術の構築
研究責任者の所属・氏名	材料基盤情報ステーション 木村 一弘
【項目】	評価結果
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・本プロジェクトは、大学よりもNIMSでより良く実施される研究のすばらしい例である。 ・NIMSらしい、国研時代からの蓄積が生かせる研究である。日本は直接的・間接的に構造材料が貿易材の根幹なので、データベース等の貢献は必須である。 ・日本人のみが何十年ものプロジェクトを実施し、高い質を維持するという、我慢とその決定を行っている。 ・本プロジェクトは、材料知識及び基礎標準や事故解析に対して重要な寄与をする。 ・これは研究者を“興奮”させるプロジェクトでもなく、“斬新な”プロジェクトでもないが、非常に重要であり、維持されるべきである。 ・既に多くの仕事になされてきた。本研究は産業界にとっては非常に重要である。国際的標準が機械材料評価のはっきりしたモデルを作ることを期待する。 ・予測手法については今後も具体的な指針を提示していく必要がある。 ・長時間試験中のいくつかの材料は時代遅れになってしまったものもあるかも知れない。大事なことは、どのようにして正確な加速寿命測定法を確立し、類似材料に適用できる信頼できるモデルを作ることである。 ・この仕事は国際的な協力によってのみ、解決される。
評価点	A, A, A+, S-, S, S, S, A+, S, A
総合評価点※	A+

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点(小数点第二位以下四捨五入)をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, (以下同じ考え方)・・・とする。